

府中市観光振興プラン 概要版—目次

1	プラン策定の背景・目的	1
2	プランのポイント	1
3	プランの計画期間	1
4	プランの指標（K G I）・目標値	2
5	府中市観光の現状分析	2
6	基本目標	4
7	施策の基本方針	5
8	施策の体系・指標（K P I）	6
9	推進体制	7
10	施策の評価・効果検証	7

1 プラン策定の背景・目的 (本編2ページ)

府中市観光振興プラン(令和4年度～令和11年度)(以下「本プラン」といいます。)は、観光・交流を取り巻く潮流を踏まえ、本市の豊富な地域資源を個々の資源としてではなく、市民が魅力を感じているヒト・モノ・コトを改めて見直し、市内外の人々の交流を促すストーリー性のあるコンテンツや拠点づくりなどの施策展開の方向性、推進主体に求められる機能等を明確に示し、観光・交流による地域の活力向上、市民が誇れる観光・交流の磨き上げ、持続可能な観光・交流を実現することを目的として策定するものです。

2 プランのポイント (本編5ページ)

本プランの目標達成に向けて、下記の4つのポイントを踏まえ、プランを作成しました。

(1) 経営力に基づく観光の推進

品質管理、組織力、危機管理、マーケティング等を意識した施策の展開を行うことにより、経営力に基づく観光を推進します。

(2) 日常を含め市民がホスト・ゲストとして楽しめる観光の推進

市民が本市の魅力を知り、体験をすることで、その魅力を市内の多様な事業者や市民との協働・共創により発信し、外から訪れる観光客とのより深い交流の促進につなげます。

(3) 多様な主体の連携

- ① **産業間連携・交流**
商工業、博物館・美術館等の文化施設等、多様な主体の連携を促進します。
- ② **世代間連携・交流**
武蔵国から続く本市の伝統・交流文化、本市の良さを残しつつも、新しい時代を担っていく次世代との世代間交流を促進していきます(子供達への観光まちづくり教育、高校・大学等の教育機関との連携、外から訪れる若い世代との交流)。
- ③ **地域間連携・交流**
他地域、近隣自治体と連携を図りながら、本市のポジションを明確化します。

(4) 持続性(仲間づくり・人づくり・継続的なプロモーション)

持続可能な観光・交流を目指して、子供達への観光まちづくり教育等の人材育成や、継続的なプロモーションを展開していきます。

3 プランの計画期間 (本編6ページ)

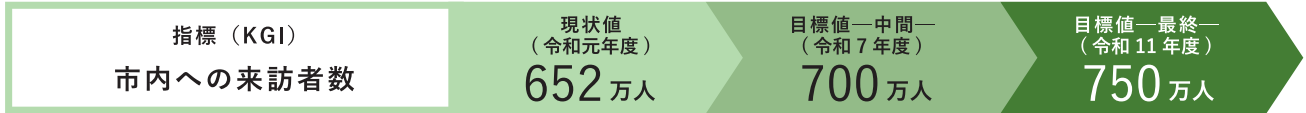
本プランの計画期間は、令和4年度(2022年度)から令和11年度(2029年度)までの8年間とし、令和7年度(2025年度)に中間評価・見直しを実施します。



4 プランの指標 (KGI)・目標値 (本編 6 ページ)

目標値は、令和 11 年度 (2029 年度) に最終目標値、令和 7 年度 (2025 年度) に中間目標値を定めます。また、計画の進捗状況の検証には、次の 3 つの指標を設定します。

※KGI：本プランの目標を評価するための指標



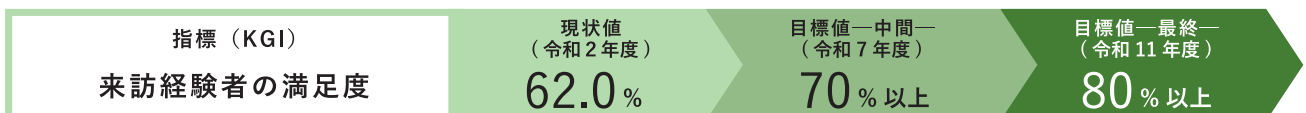
ビッグデータを活用して分析した市内に来訪した人の数です (府中市民を除きます。)

(出典:RESAS まちづくりマップ From-to 分析(滞在人口)、東京都府中市、休日、14 時の滞在人口、15 歳以上 から 80 歳未満までの男女)

※休日数は、土曜日・日曜日・国民の祝日の合計値から算出しています。



本市への来訪の推奨意向を、「総合計画に関する市民意識調査」の回答から数値化するものです。推奨度を 5 段階で評価し、全体に占めるポジティブな評価 (推奨度が 4 又は 5) の割合を算出します。



直近の本市への来訪について好意的に評価した人の割合を、1 都 3 県 1,000 人を対象としたインターネット調査により把握します。

5 府中市観光の現状分析 (本編 46 ページ)

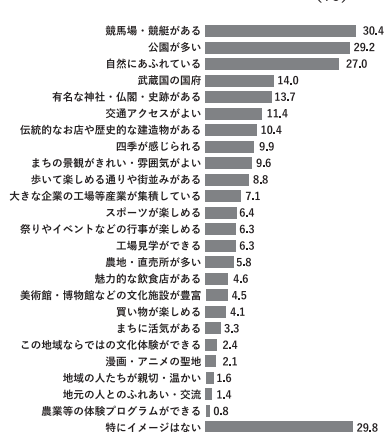
府中市観光 WEB 調査結果や協議会・ワーキンググループの意見を踏まえて、本市の観光振興へ向けた課題を整理しました。

出典：府中市観光 WEB 調査 (2020 年)

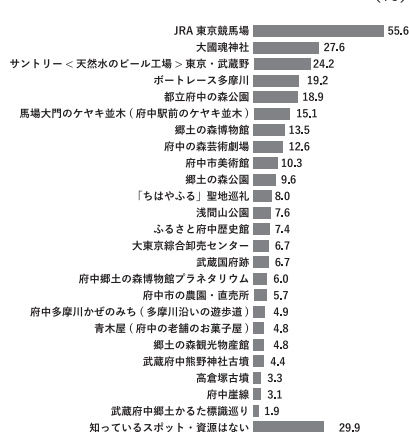
本市のイメージとして、「競馬場・競艇がある」30.4 パーセント、「公園が多い」29.2 パーセント、「自然にあふれている」27.0 パーセント等が比較的多く見られます。一方、市民が強みと感じている歴史関連のイメージ項目 (武蔵国の国府、伝統的な店や歴史的な建造物がある、有名な神社・仏閣・史跡がある) を挙げている人は 1 割強程度となっており、主要スポットにおける認知度も低く、市民と訪れる方とのギャップがあることが分かります。また、イメージの中でも「府中といえば〇〇」といったシンボリックなものは少ないのが現状です。市内には、国府として発展してきた歴史関連資源を始め、駅前ショッピング施設等の商業、先進技術の工場が立地している工業資源など、市民が誇れる資源が多数存在しております。それらを点ではなく、面として捉え、市民もゲスト・ホストとして楽しめるコンテンツとして発信していくことが重要です。

それに伴い、観光事業の推進体制の構築が非常に重要となります。現在、各施設・団体ごとに SNS 等を活用した情報発信をしていますが、多様な主体と横断的に連携し、情報発信の一元化を図るなど、効果的な情報発信に取り組む必要があります。

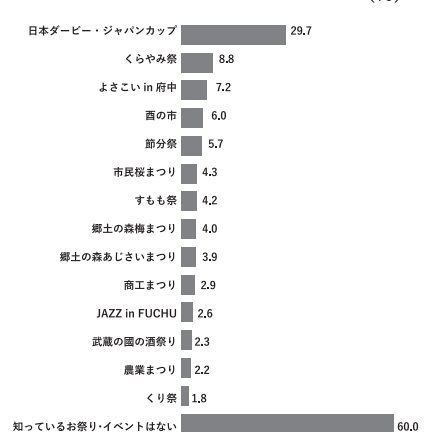
府中市のイメージ (%)



府中市主要スポットの認知 (%)



府中市イベント等の認知 (%)



観光 WEB 調査結果や協議会・ワーキンググループの意見より導出した府中市観光の課題について、カテゴリー別に整理を行いました。また、本市としての「強み」、「弱み」、「機会」及び「脅威」を SWOT 分析で整理をしました。

課題	
イメージ	競馬場や公園、自然にあふれている等のイメージが比較的多いが、強みといわれている歴史関連（大國魂神社・くらやみ祭等）のイメージは低くなっています。
お祭り	くらやみ祭等のお祭りは、古くから人々の手で守られてきた神聖なお祭りになっています。一方で、神聖なお祭りであることから、観光客がお祭りを体験する機会が不足しています。
観光の案内拠点	府中市の観光案内拠点として、大國魂神社横に観光情報センターを設置しています。一方で市内に駅が 14 駅あることや美術館・博物館等のフィールド拠点もあることから、各資源を観光拠点として活用していくことも重要です。
各主体の連携	各主体が独自の取組や SNS 等における発信をしています。点と点を結び、府中のストーリーとして面で発信していくことが今後求められています。
認知度	競馬場や日本ダービー・ジャパンカップの認知度は高くなっていますが、主要スポット・資源・お祭り・イベントの認知度は全体的に低くなっています。
来訪経験	9 割以上が日帰りで訪れており、来訪目的も分散しています。主要なコンテンツをターゲットへ明確に伝え、滞在時間を長くしていくことが課題となっています。
ギャップ	調査により、来訪客は府中市に「観光」「旅行」で来ている感覚ではなく、府中のライフスタイルを楽しみに来ていることが分かっています。府中市民が楽しんでいるモノ・コトを発信していくことが重要となります。
庁内連携	府中市のライフスタイルを市内外に発信していくためには、庁内の観光の部署だけでなく、主要コンテンツに沿った部署間の連携が不可欠となります。

SWOT 分析

弱み（課題）を克服するとともに、強み（歴史的背景・テーマ性・多様なお祭り・イベント・14 駅等）をいかし、機会を着実につかむことを意識した施策を展開します。

強み (S)	弱み (W)
<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵国の国府、ストーリー性、都会の中の田舎 ・まちの魅力を伝える博物館、個性的な企画展を開催する美術館等の施設 ・先進技術などの商工業が集積している。 ・駅が 14 か所あり、都心からのアクセスが良好・駅周辺の個性的なお店群 ・魅力的な住環境・市民の府中市への愛着（暮らす人の満足度が高い。） ・多様なお祭り・イベントの開催 ・人情味の厚い府中市民 ・公園や都市農業など緑空間が多い。 ・次世代育成の場づくり（小・中学校とのつながり） ・良好なスポーツ環境 ・国際的スポーツイベントでの各国代表チームのキャンプ受入支援 ・近隣自治体より小・中学校が多い。 ・東京外国語大学、東京農工大学、都立農業高等学校がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各資源・コンテンツの認知度の低さ ・歴史関連（大國魂神社、くらやみ祭等）のイメージは低い。 ・お祭り・イベントを体験する機会が少ない。 ・各主体がそれぞれの取組を行っているが、情報発信等の連携が取れていない。 ・府中市を象徴するイメージがない。 ・観光の案内拠点が少ない。（駅が 14 駅あるが、観光の拠点にはなっていない。） ・受入側と訪れる側のギャップ（観光として訪れていない。） ・観光危機管理の視点（多摩川の氾濫や災害時の危機管理） ・庁内の横の連携が不十分 ・近隣地域との連携体制・近隣地域との差別化
<ul style="list-style-type: none"> ・東京 2020 オリンピック・パラリンピックレガシー（ロードレースのスタート地点、事前キャンプの受入れ） ・ラグビーワールドカップ 2019 のレガシー（スポーツを通じた交流） ・観光の多様化 ・スーパーシティ・スマートシティなど、デジタルや先進技術への注目 ・ワーケーション、マイクロツーリズムなどの新たなトレンド ・SDGs の国際的な流れ ・コロナ禍における健康志向の高まり（緑空間やスポーツ環境への関心の高まり） ・ちはやふるなどのアニメ聖地巡礼等、特定テーマへの注目 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響 ・多摩川氾濫等の災害 ・人流の減少 ・都市化による緑（公園や都市農業）の減少（人口が増え続けている。）
機会 (O)	脅威 (T)

6 基本目標 (本編 58 ページ)

経営力に基づく観光を基軸として、観光・交流による地域の活力を向上し、市民が誇れる観光・交流を磨き上げ、持続可能な観光・交流を実現することを、本市の観光振興の基本目標（目指すべき姿）と定めます。

観光振興の基本目標（目指すべき姿）に向けて、観光に関わる全ての関係者と目標を共有し合い、協働していくため、本市ならではの価値（地域ブランドの方向性）をスローガン・コンセプトとして分かりやすくまとめました。

(1) スローガン

多様性と持続性のある交流文化都市 府中 ～ 伝える つながる 仕掛ける ～

(2) コンセプト

① 伝える

約 1300 年前に武蔵国府が置かれた府中市は、武蔵国（現在の東京都・埼玉県・神奈川県横浜市・川崎市の大部分）の政治・経済・文化の中心として栄えました。江戸時代には、甲州街道の宿場町として産業・情報が集積し、多彩な文化が育まれてきました。この長い歴史の中で培われてきた交流の礎は、現代の府中市民のシビックプライドに引き継がれ、地域の活力・地域の魅力向上、そしてシティプロモーションにもつながっています。

② つながる

くらやみ祭を始め、大國魂神社やけやき並木通りを中心に、一年を通して行われる伝統の祭りや多くの市民イベント、最先端のテクノロジーを誇る様々な分野の大規模事業所、複合商業施設や個性的な商店街などへの来訪者でにぎわう街中、市民や来訪者の心を癒やす豊かな緑地、国際スポーツ大会での海外との交流の実績など、現在も交流の歴史の上に新たな文化が生まれ、多様な出会いや連携が創出されています。

③ 仕掛ける

歴史を背景とした”上質な時間”が流れる府中市の魅力を市民がホスト・ゲストとして楽しむとともに、その魅力を市内の多様な事業者や市民との協働・共創により発信しながら、国内外の人々のより大きく多様な交流を促します。

7 施策の基本方針 (本編 60 ページ)

基本目標を踏まえ、本プランに盛り込む施策の基本方針を次のように設定しました。

観光・交流による地域の活力向上 市民が誇れる観光・交流の磨き上げ 持続可能な観光・交流

スローガン..多様性と持続性のある交流文化都市 府中 く伝える つながる 仕掛ける く

1 多様な事業者のコラボレーションによる観光コンテンツ・交流拠点づくり

本市の主要テーマである緑・商工業・スポーツ等の資源に歴史・文化的ストーリーを加え、観光コンテンツづくりを行います。また、文化施設（博物館・美術館・芸術劇場等）、市内 14 駅、商業施設・商店街などを交流拠点として活用し、面として魅力を発信することで、来訪者の回遊性の向上、滞在時間の増加を図ります。加えて、市民がホスト・ゲストとして楽しむことや主要テーマの連携を行い、コンテンツの高付加価値化及び「質」を重視する観光を目指します。

また、コンテンツを造成するだけでなく、成果の指標（KPI）を定め、検証を行い、更にコンテンツをブラッシュアップしていくなど、持続可能な観光振興につなげていきます。



2 ターゲットを明確にしたプロモーション（情報発信）

多様化する観光市場を見据え、誰に・何を・どのように伝えるか、マーケティング視点によるターゲットを明確に定めた情報発信を行います。その際には、市民に向けた情報発信や、ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーをいかした国外向けプロモーションなど、市内外・国内外問わず、相乗効果による交流の促進を図ります。

また、情報発信や効果測定のデジタル化、情報の一元化など、様々なコンテンツが整理されたプラットフォームの構築による効果的な情報発信を行います。



3 府中市の観光まちづくりを担う人材の育成／受入環境整備

受入体制を考えるに当たって、ホストとしての市内の人材育成も強化します。ガイドなどの観光に関わる人材の確保・育成や、市内小・中学生等の子供達に対する観光まちづくり教育を行うなど、自分たちの地域の良さを知り、愛着を持ち、そしてその良さをゲスト（市内外）に発信していく持続可能な観光まちづくりに向けた取組を行います。

また、本市を訪れる方の利便性や滞在時間の向上、満足度の向上を目指し、SDGs の視点も踏まえた、年齢や性別、国籍や障がいの有無などにかかわらず“誰もが楽しめる旅行”（ユニバーサルツーリズム）とするため、受入環境整備を行います。訪日外国人旅行者に対しては、ラグビーワールドカップ 2019 の公認チームキャンプ地や東京 2020 オリンピック・パラリンピックの各国代表チームの事前キャンプ受入実績をいかし、より深いホスピタリティを実践するほか、多言語対応などのハード面も継続的に整備していきます。加えて、国内来訪者については、交流を通して関係人口の創出を図ります。

4 推進のための体制づくり

本市の観光振興の中心となる府中観光協会を下支えする体制として、観光関係者・団体のみならず、市民、観光振興連絡会、農業・商工業関係者、スポーツ団体、教育機関、行政等、様々な主体が連携を行い、事業を推進していきます。また、庁内各部署間の横断的な連携・取組を促進することで、より迅速に観光まちづくりを進めます。加えて、東京農工大学や東京外国語大学、都立農業高等学校等の高校・大学等教育分野との連携、周辺自治体との連携を強化し、世代間連携・広域連携による相乗効果も図ります。

また、体制構築の中で、新たに観光危機管理の視点を含め、多摩川氾濫などの危機に応じて、来訪者に対し、どのような対策を講じていくのか、計画・役割分担を定め、安心・安全な観光を目指します。

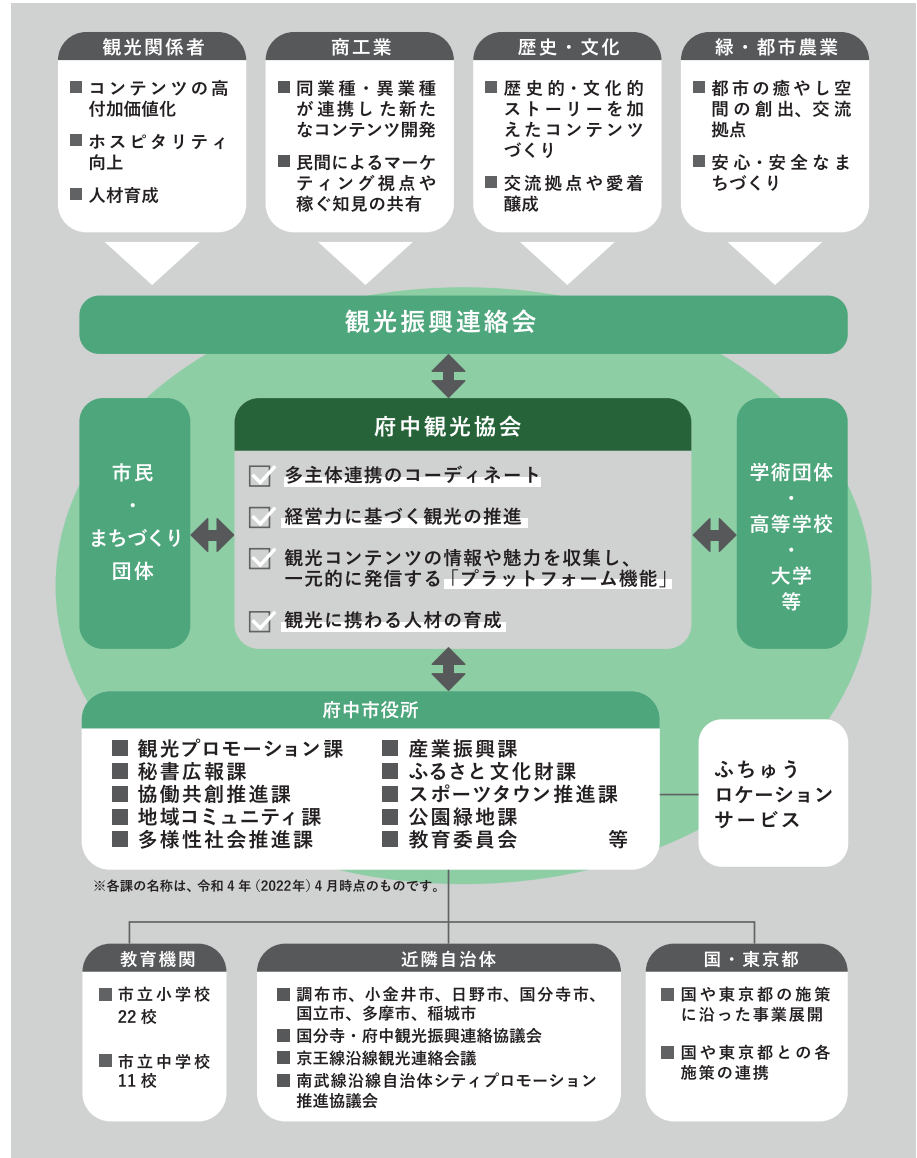
8 施策の体系・指標（KPI） （本編 64 ページ）

基本方針を踏まえ、具体的な施策メニューの体系化を行いました。

	項目	指標（KPI）
1 多様な事業者のコラボレーションによる 観光コンテンツ・交流拠点づくり	(1) 観光コンテンツづくり	
	リーディングプロジェクト ①ストーリー性のある観光コンテンツの開発	・コンテンツ作成数
	重点施策 ②市民も楽しめる観光コンテンツの開発	・観光プログラムの参加者数
	重点施策 ③観光プログラムの定期的な評価・測定	・観光プログラム参加者満足 ※プログラム参加者アンケート
	重点施策 ④各テーマの多様な主体が連携した観光コンテンツの開発	・近隣自治体との連携事業数
	基礎づくり ⑤近隣自治体等と連携したコンテンツ造成	
	(2) 交流拠点づくり	
	リーディングプロジェクト ①駅や観光・文化施設を活用した交流拠点づくり	・主要施設の入込客数 <small>（観光情報センター、郷土の森観光物産館、郷土の森博物館、府中市美術館、サントリー、東京競馬場）</small>
	重点施策 ②二次交通手段を活用した各交流拠点との回遊性向上	・シェアサイクル利用者数
	基礎づくり ③郷土の森観光物産館を活用した交流拠点づくり	・ちゅうバス利用者数
2 ターゲットを明確にした プロモーション（情報発信）	(1) プロモーション（情報発信）	
	重点施策 ①ターゲットに即した情報発信の強化	・府中観光協会ホームページ アクセス数 ・SNS フォロワー数増加率 ・武蔵国 府中大使との連携事業 ・映画・ドラマ・その他 コンテンツのロケ本数
	重点施策 ②市民向けの情報発信／市民自ら情報発信をする仕組みの構築	
	重点施策 ③多様な主体による情報発信の一元化 （プラットフォームの構築・ファンづくり）	
	重点施策 ④フィルムコミッションを活用した情報発信の強化	
	重点施策 ⑤国際的なスポーツ大会のレガシーをいかした インバウンド向けプロモーション	
	基礎づくり ⑥パンフレット・特設サイトの適正化	
	基礎づくり ⑦武蔵国 府中大使との連携強化	
3 府中市の観光まちづくりを担う 人材の育成／受入環境整備	(1) 人材育成	
	重点施策 ①ガイドなど観光に関わる人材の確保・育成	・観光ボランティアガイド向け 勉強会等の開催数
	重点施策 ②府中市の未来を担う小・中学生等を対象とした 観光まちづくり教育	・新規ボランティアガイドの獲 得数
	基礎づくり ③お祭りやイベント等のコーディネート・ プロモーション支援	・小・中学生等を対象とした観 光事業数
	基礎づくり ④各観光・文化施設の観光分野に関わる人材育成	・お祭りやイベント支援数
		・観光分野に関わる人材に向け た講座数
(2) 受入環境整備		
基礎づくり ①スポーツ大会の受入実績をいかした訪日外国人受入環境整備	・多言語案内ツールの整備	
4 推進のための 体制づくり	(1) 推進のための体制づくり	
	リーディングプロジェクト ①多様な主体の連携	・観光振興連絡会開催数
	重点施策 ②府中観光協会の体制強化への支援	・観光振興連絡会による 新規施策数
	重点施策 ③庁内における横断的な推進体制の構築	・庁内横断事業・施策数
	重点施策 ④観光危機管理を意識した連携体制	・観光危機管理に関する セミナー数
	基礎づくり ⑤各テーマごとのリレーシヨンの構築	・周辺自治体との会議数
	基礎づくり ⑥周辺自治体との連携による広域的な推進体制の構築	

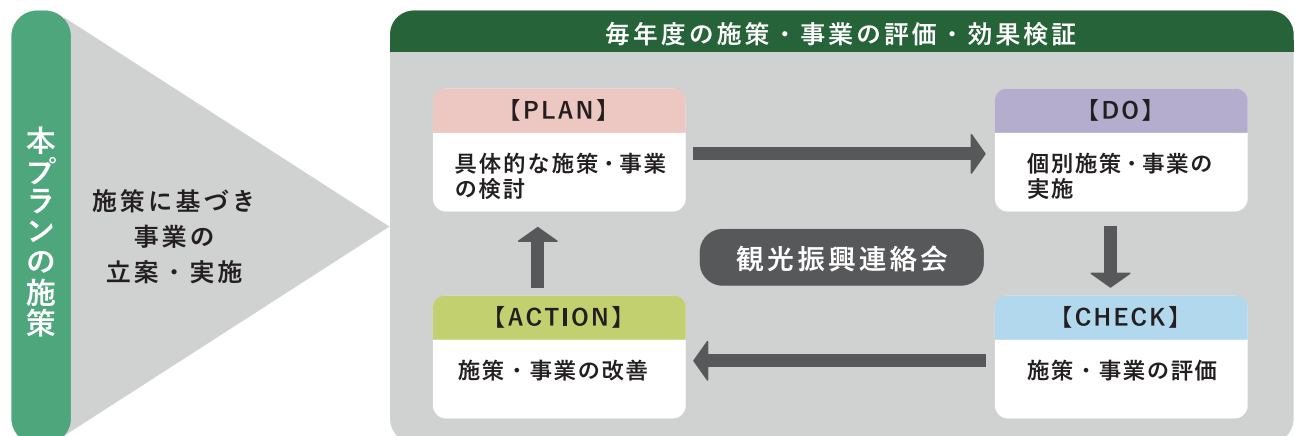
9 推進体制 (本編 82 ページ)

「施策の基本方針」(5 ページを参照)に位置付けているように、施策の推進に当たっては、府中観光協会を中心として、市民、観光振興連絡会、観光関係者・団体、農業・商工業関係者、スポーツ団体、教育機関、行政といった関係主体の協働に基づく取組が大切です。



10 施策の評価・効果検証 (本編 85 ページ)

本施策の推進に当たっては、観光振興連絡会において、取組の評価や検証を毎年度行います。各施策の進捗状況を把握し、評価・検証を行い、それらを踏まえて次年度以降の施策や事業内容の改善・修正を行うなど、進捗管理をしながら本市の観光振興の目標達成に向けて取り組めます。



府中市観光振興プラン

令和4年度(2022年度)～令和11年度(2029年度) 概要版

発行日 令和4年(2022年)3月

編集・発行 府中市生活環境部観光プロモーション課

〒183-8703 府中市宮西町2丁目24番地

電話 042-364-4111(代表) 042-335-4095(直通)

FAX 042-335-1020

ホームページ <https://www.city.fuchu.tokyo.jp/>

